

第5回静岡市・由比町合併協議会

会 議 録

平成19年12月1日
静岡市・由比町合併協議会事務局

- 1 開催日時 平成19年12月1日(土)午後4時00分から
- 2 開催場所 静岡市役所静岡庁舎新館 17階「170会議室」
- 3 出席者 <出席委員>
小嶋会長、望月副会長
鈴木委員、剣持委員、青木委員、横尾委員、市川源委員、藤浪委員、
佐藤委員、岩邊委員、小倉委員、豊島委員、市川彰委員(全13名出席)
- 4 開 会
- 5 会長あいさつ
- 6 議 事
 - (1) 協 議
 - ① 合併の是非決定について
 - (2) その他
- 7 閉 会

○事務局 次第のほか合併協議会の案と合併基本計画をお配りしてございますのでご確認ください。

それでは、定刻となりましたので、第5回静岡市・由比町合併協議会を開会いたします。

なお、本日の会議には委員全員のご出席をいただいておりますのでご報告いたします。

それでは、会議の開催に当たりまして、会長からごあいさつ申し上げます。

○会長（小嶋善吉） 皆さん、こんにちは。最終回となります第5回目の合併協議会の開催に当たりまして、一言ごあいさつを申し上げます。

委員の皆様には7月の合併協議会の設置に始まりまして、その後、4回の合併協議会や準備説明会に当たりまして、お忙しい中にもかかわらずご出席をいただきましてありがとうございます。ここまでは順調にきたというふうに思います。

これまでを振り返りますと、意見が整わず調整に時間を要した項目もありましたけれども、前回の会議で一応すべての協議項目について決定をすることができました。これもお互いが相手の立場を尊重し、歩み寄ってつくり上げた成果であるというふうに感じております。

本日は、委員の皆さんからこれまでの協議を踏まえ、合併の是非についてのご意見をお伺いをするということになっております。私たちの子供や孫の世代にとってこの合併がいかにあるべきか。どのようなまちづくりを目指していくのか。その将来を見据え大所高所の観点から、それぞれでご判断をいただきたいと思っておりますのでよろしくお願いいたします。

○事務局 次に、今回は最終回ということですので、副会長からごあいさつ申し上げます。

○副会長（望月俊明） 副会長の望月でございます。

本日は、第5回の合併協議会が最終回ということですので、私からも一言ごあいさつをさせていただきます。

7月9日に静岡市・由比町合併協議会を設置いたしまして、8月3日の第1回より本日まで5回の協議を無事進めることができましたことは、小嶋静岡市長をはじめといたします静岡市議会の皆様、静岡市民の皆様方の絶大なるご理解のたまものと心から厚く御礼を申し上げる次第でございます。

前回、合併旧法におきまして合併協定書の締結を白紙撤回する、そういった無礼を働いた由比町でありました。しかし今回の合併協議会におきましては、静岡市側の委員各位は過去は過去として、新たな気持ちで私たちの由比町の実情を温かく迎え入れてくださいました。おかげさまで町を預かる私といたしましても、今回の協議結果は胸を張って町民に報告できるものと喜んでおります。

本日は、これから合併の是非決定をすることとなりますが、全員一致によります合併を是とする決定がなされるものと信じております。今後におきましても編入させていただく由比町民の不安解消に向け、静岡市さんのお力をいただけますよう心からお願い申し上げます、お礼

のごあいさつとさせていただきます。

ありがとうございました。

○事務局 それでは、次に報道関係者の方をお願い申し上げます。

これから議事に入りますので、カメラ等の撮影につきましては所定の位置からということで、よろしくお願いたします。

また、委員の皆様方には議事録の作成の関係上、お名前をおっしゃってからご発言くださいますよう、よろしくお願申し上げます。

それでは、ただいまから議事に入ります。

議長であります会長に進行をお願いいたします。

○会長（小嶋善吉） 本日の議事に入る前に、前回の第4回合併協議会における結果と合併協定書の（案）について、事務局から報告がありますのでお聞きください。

○事務局 それでは、11月12日に開催いたしました、第4回合併協議会の協議状況についてご報告をいたします。

継続協議になっておりました一部事務組合の取扱い及び合併基本計画につきまして、協議決定をいただきました。

まず、一部事務組合の取扱いでございますが、内容につきましては合併協定書案の3ページをご覧くださいと思います。

共立蒲原総合病院組合につきましては、由比町は合併の日の前日をもって脱退するものとする。

運営費に係る静岡市の負担割合は、従前の静岡市の負担割合に由比町分を加えた負担割合とする。

関係市町は実効性のある経営改善に努めるものとする。

平成18年度までの累積欠損金については、毎年度の予算の定めるところにより平成26年度までに清算する。

平成19年度に生じた欠損金については翌年度に処理し、平成20年度以降については毎年度の予算に定めるところにより、欠損金が生じないように措置するものとする。

なお、駿河看護専門学校は平成22年度末をもって廃校するものとする。

庵原郡環境衛生組合については、合併の日の前日をもって解散するものとし、由比町の区域における当該組合が処理している事務を静岡市に引き継ぐものとする。

なお、解散後の庵原郡環境衛生組合の財産及び職員の取扱いについては、関係市町において別途協議して定めるものとする。

庵原地区消防組合については、合併の日の前日をもって解散するものとし、由比町の区域における当該組合が処理している事務を静岡市に引き継ぐものとする。

なお、解散後の庵原地区消防組合の財産及び職員の取扱いについては、関係市町において別

途協議して定めるものとする」と決定をいたしました。

合併基本計画につきましてはお手元に配付をしている内容で、前回の会議におきまして決定をいただいております。決定をいただいた後、県知事に対しまして法定協議をお願いいたしまして、11月28日付で異議がない旨の回答がございましたので、この場でご報告をさせていただきます。

これですべての協議項目についてのすり合わせ方針などが決定をいたしましたので、お手元の合併協定書（案）によりまして、今のものも含めて全体を通じての説明をさせていただきたいと思います。

まず、合併協定書（案）の1ページをごらんください。

1番から5番までは基本項目でございまして、合併の方式は静岡市への編入合併、合併の期日は平成20年11月1日といたしました。下段の6番から3ページの10番までは、法による特例項目であります。6番の市議会議員の取扱いは、市町村の合併の特例等に関する法律の特例制度は適用しないこととなりました。また、7番の農業委員会は静岡市の農業委員会に統合するものとし、由比町の選挙による委員1名が静岡市の委員の在任期間に限り在任することとなりました。8番の地方税は、由比町の区域については合併が行われた日の属する年度及びこれに続く2年度に限り事業所税を課税免除とし、都市計画税の税率は0.2%とする不均一課税とすることにいたしました。そして、10番の地域審議会及び地域自治組織は設置しないことといたしました。由比地区からの意見交換の要望について配慮することとなりました。11番、12番につきましては、先ほどの説明のとおりでございますので省略させていただきます。また、13番以降は編入合併ということでございまして、基本的に静岡市の制度に統一をすることになります。なお、15番の組織・機構に係る合併協議会の附帯意見につきましては、別紙といたしまして10ページに掲載をしております。

以上のとおり、第1回の協議会において設定した31の協議項目すべての協議が終了し決定をいたしました。また、このほかにも住民説明会や広報紙、ホームページによりまして、できる限りの住民意向把握に努めたところでございます。したがって、委員の皆様にはこの合併協定書の内容が協議会の協議状況を反映していることをご確認をいただきまして、合併の是非判断をお願いするものでございます。

説明は以上でございます。

○会長（小嶋善吉） 協議状況及び合併協定書（案）は報告のとおりであります。

それでは、合併の是非決定に当たって、その方法等について事務局から説明があります。

○事務局 それでは、これから合併の是非決定をお願いするわけでございますが、その方法等につきましてご説明をいたします。

まず、採決の方法は会議運営規程第6条の規定に基づきまして、出席委員の過半数をもって決し、可否同数のときは議長の決するところによるものといたします。そして副会長及び各委

員にはお1人ずつ合併については是非の判断を示していただいた後に、その理由をご発言いただけます。

次に、発表の順番でございますが、協議会規約第8条の委員の選任の順番に従いまして、両市町の議員、民間委員、県委員の順にご発言いただきます。その後、副会長であり、町を代表する町長にお願いをいたします。そして、賛成または反対の人数を確認し、その結果をもって合併の是非の決定を行いたいと思います。なお、可否同数の場合は議長でございます会長の決するところになります。

以上、是非決定の方法についてご説明をいたしました。

○会長（小嶋善吉） ただいま事務局から説明がありましたが、この方法により是非決定を行うということですのでよろしゅうございますでしょうか。よろしいですか。

それでは、ただいまの説明のとおりの方法によって是非決定を行います。

それでは、お手元には是非判断確認票というのがあると思いますが、この委員の順番が今、事務局から説明のありました順番であります。

それでは、静岡市の鈴木委員から順番に合併の是非判断と、理由についてご発言をいただきたいと思います。よろしくお願ひします。

○委員（鈴木和彦） 静岡の鈴木でございます。

それでは、先に結論から申し上げます。賛成をいたします。

特に、この由比町さんとの合併につきましては、町長さんからも冒頭ご発言があったように、一度白紙撤回があつて、そして私ども議会としては、由比の選挙を通じて平成21年3月ということがひとり歩きをした時期がありまして、大変、議会としても一時期不信感を持った時期もありましたけれども、いずれにしても由比の町民の皆さんの変わらない情熱、そしてこの合併に対する熱意というものを、やっぱり重く受けとめなければいけないなという思いでありました。そして、この合併協を通じていろんなすり合わせ事項もありましたけれども、お互いに互譲の精神というものを発揮して、スムーズにいろんな項目が決まってきたということも大変大事にしなければいけないなど。特に支所問題につきましては、少し時間がかかりましたけれども、これはぜひ由比の町民の皆さん早く合併ができればですね、1日も早くなれていただいて、そして、この所期の目的であります行財政改革ということも町長さんからおっしゃられましたけれども、この目的に向かって蒲原に支所というものもあるわけでありまして、これらを町民の皆さんに1日も早く理解をしていただいて、この行財政改革の趣旨が実現できるようにご努力をいただきたいと思ひますし、また、その支所の問題だけではなくて、由比町のすばらしいものがあるわけでありまして、これをやっぱり前面に押し出していくということの中で、私どもも協力もしますし努力もしていきたいと思ひしておりますので、そういう大儀に向かって頑張っていけたらいいなというふうに思ひます。

それから、もう一つ、最後になりますけれども、今日は県の代表で市川さんいらっしゃいま

すけど、なかなか合併というのは大変なものでありまして、平成18年3月に県の方から、この由比町と静岡市の合併が重要だというご示唆をいただきました。それも私ども議会も大変重く受けとめております。しかし、やってみると庵原3町時代の一部事務組合の整理の問題も大変大きな問題を抱えておりまして、財政的にも非常に厳しいものがあります。静岡市はどちらかという、全国的にも合併には模範的なリード役をしてきたという自負をしているわけですが、今回の由比町の合併につきましても、県の代表であります市川さんにもその辺のことを十分ご理解をいただいて、これから財源的にもいろんな要望事項がたくさん持つていくことがあるかと思っておりますけれども、その辺についてもぜひ私ども、これは要望になりますけれども、そんなことも意見を付して私の賛成意見とさせていただきます。

○会長（小嶋善吉） 続きます、剣持委員。

○委員（剣持邦昭） 剣持です。合併に賛成です。

一つ、由比町民あるいは由比議会も含めて、ぜひご理解いただきたいという点があります。

それは、静岡市民の中には、この合併に対してもろ手を挙げて、すべてウエルカムで賛成だという人ばかりではないという人も、少しはいるということをもまず前提でご理解いただきたいと思っております。そういう中で、静清庵あるいは静清庵圏という大きな中部圏の100万都市に向かって、この合併は避けて通れないという、そういう我々も重い責任を今ここでしょっているなというのを感じます。これからの将来のために。そういう意味では、この合併でぜひ由比町民の方にも今まちづくりのためのNPO法人を立ち上げて、地域自治審議会はつくらないけれども、自分たちで自らそういう立ち上げて努力していく。あるいは静岡市の一員の静岡市民の一翼を担っていくというようなお話もありましたので、私どもとしては、この静岡市の自治基本条例のとおり、これからのまちづくりをぜひひとつね、一緒になってやっていければなど思っております。

ひとつ、またそれをお願いですが、合併によって市民サービスがよくなる。しかし、この間の住民説明会で、かなりまだ合併に対して不安感あるいは不信感あるいは心配されている旨のお話がありました。ぜひこれから合併までに市民サービスがよくなると、合併のメリットがこうなんだということをしっかりと住民に伝えてほしいし、そのための努力をひとつ議会あるいは町長さんも含め、あるいは町民のここの代表者の方もぜひひとつそれを訴えてほしいと思っております。そして、今日もし決まれば議会でもね、全員がこの議決、賛成に回っていただくような、よろしくその辺をお願いしたいなと思っております。

そういうことで私の意見とさせていただきます。

○会長（小嶋善吉） 続きます、青木委員。

○委員（青木 仁） 青木です。

結論から申しまして、私も合併には大賛成です。

ただいま事務局の方から一部事務組合の件、お話がございましたように、一番心配をされて

おりました蒲原病院も存続が決まりましたし、また、火葬場の方も現状どおり使用ができるということ。また、ごみ、その他の廃棄物については静岡市の処理場で一緒に処理していただければと思いますし、由比にある消防の本部も静岡市が引き継いでいただければ。したがって、救急的な病院の業務を今まで以上に効率のよい活用が私、されるのではないかと、かように思います。また、静岡市の議員の皆様方も市民の皆様方も編入合併でありますけれども、対等の精神で審議されまして、私たちいろいろな住民生活に直結するような事業も激変を緩和することができました。私たちは20年、30年先の安心・安全なまちづくりに、子供たちが夢や希望の持てるまちづくりのために、生活圏がもう既に同じの静岡市との合併に私、賛成をしております。

よろしく願いいたします。

以上です。

○会長（小嶋善吉） 続いて、横尾委員。

○委員（横尾泰治） 由比町の横尾です。静岡市と由比町の合併に賛成します。

今年4月22日に行われました由比町における統一地方選挙、静岡市との合併の可否を住民に求めた選挙でした。その結果、定数11人に対しまして13人が立候補いたしました。その内容はですね、合併推進派の9人が全員が上位当選すると。こういう要するに住民の意思表示がはっきり出たという選挙だったと思います。私は現在まで1議員としてこの選挙結果を重く受けとめまして、静岡市との合併の推進に努力してまいったところであります。

先ほど青木委員も言いましたように、静岡市と由比町は生活圏、経済圏においても最も密接な関係にあり、同一の地域と言っても過言ではないと思っております。また、旧庵原郡の現状を見ましても富士川町は富士市との合併協議を進めています。また、隣の旧蒲原町は既に静岡市と飛び地合併をいたしました。由比町はこのままではまちづくりに遅れを取り、将来、住民に大きなしわ寄せがくるものと考えます。

一方、明日にも来ると言われております東海地震のことを考えますと、町域の75%が山間地である由比町は大きな被害を受ける可能性があります。また、少子高齢化は急ピッチで進んでおります。各方面の行政運営において、基盤の小さな自治体では行き詰まりがくることは間違いありません。さらに広域的に進めてきている病院、環境衛生、消防、一部事務組合においても問題は山積みしております。これらのことを総合的に判断し大きな財源、強力な組織力を持つ政令市である静岡市との合併を、今こそ実現しなければならないと考えております。

ここで、合併後のこととして2項目をお願いしたいと思います。

まず1つ目は、静岡市と由比町を結ぶ国道1号は、国においても重要な道路になっております。交通量も1日に6万台余の車両が通行しております。しかしながら迂回路がないため、現在では頻繁に交通渋滞が発生しております。東海地震また地域の住民の日常生活のことも考慮した上で、バイパス的機能を持つ新たな道路建設を県や国にも働きかけ、早く実現することを

お願いします。

2つ目は、事務所機能の確保です。由比町は120年からの歴史のある町です。現在まで小さな町ながらこそできる身近な行政を施行してきております。しかし、人口は減少し高齢化率も高く、お年寄りが遠出することは本当に大変なことだと思います。このような不安を解消するため支所的機能の内容や当分設置される事務所機能におきましては、住民に不便を感じさせないようご配慮くださることをぜひともお願いいたします。

終わりに、本日の協議会の結果を持ち、両市町の議会に合併議案が提案されるわけでありませんが、間違いなく可決されるため合併推進派議員として、町長、議長と力を合わせ、万全の体制を整えて議会に臨んでいきたいと思っております。

以上、静岡市との合併に対する賛成意見を述べさせていただきました。

ありがとうございます。

○会長（小嶋善吉） 続きます、市川委員。

○委員（市川源一） 私は、この合併協議会の委員という立場と、もう一つは、市民を代表しているという自治会連合会の会長という立場で、この合併協議会に出席させていただいた関係で、市民としての一番これは委員の方々にお聞きを願いたいなということを申し上げたいと思います。

まず、1つは、静岡市と由比町、この合併につきましてはいろいろと皆さんご検討いただきまして、合併ということに私もろ手を挙げて賛成ということにさせていただいております。

どうぞよろしくお願いいたします。

次に、今、私は静岡市ということで3区にわたって今現在、自治会の方をやっておりますけれども、葵あるいは駿河、清水区、そういう形で自治会連合会としてこれからお願いするのは、前にも私が申し上げたとおり、由比町さんは区長会さんですか、あるんですけども、しかし、これはやはりやっていることは同じことなので、ただ、そうした名称が違うだけなんですけど、ただ、コンセプトだけはしっかり持っていて、そして地域が私がいつも唱えているように、行政そして議会そして我々、市民、地域です。この三位が一体となって初めていいまちづくりができる。今までのような各町内会が行政あるいは議会に我々一体どうしよるのか、何をおれたちにしてくれるんだというような形の中でやっていた。これではいつまでたってもいいまちづくりはできませんので、この三位一体ということをしかりと打ち出しまして、今現在、私がここの会長になって7年目になりますけれども、だんだんと浸透しつつあります。これは私がくどく申し上げることなく、市民というものを対象に行政はやっていかなければならないんですから、当然のことだろうと思っております。私らも責任を持ってやらなければいけないなと思っております。

そうした中で、ご承知のように今、地方分権というものが非常に推進という形を取って、国の方でもやってきておりますが、なかなかその成果、あるいは、そうしたものに対しまして私

はよかったなとか、ああそうだったな、これは大分、分権が進んだなというようなことが何とも目に見えておりません。そういう中で、皆さんは合併後の日常生活に関しまして非常に心配だったということ、この間もお話がありましたけれども、いろいろな面でそうした面はぬぐいきれないと思いますけれども、こうしてご苦労なさって合併をするわけですからね、それに対しましては今申し上げたとおり、生まれも育ちも本当に違うところが一緒になっているだけで、静岡市にお嫁に来てくれるんだから、やはり、だんなである静岡市としては皆さんの本当に不安を解消するよう、そうしたものに対して生活の不安のないよう、すべてに31の項目に出ているように、これに準じた生活のできるよう私は努力をしていきたいなど、こんなふうを考えております。

すべてが1本化、一体化ということにするには、なかなかやはり先ほど申し上げましたような、つまり生まれ育ちの関係もございますから、なかなか思うようにいかないだろうと思う。しかし、考え方としては私はもうすべて一体化したというような考え方で進んでいただいて、区長会というものを具体的に申し上げますと、区長会というものに対しては私たちは何とも申し上げません。今、清水でも自治会、私の方は町内会ということでやっておりますけれども、そうした問題がありますけれども、なるべく早くなじんでいただいて、そうした名称もできればお願いしたいなど。そして、これからの生活が先ほどお話ありましたが、安心して安全な我々市民の生活ができ、そして政令市静岡の一員として皆さんと仲よくやっていただきたいと。どうしてもいろんなことで不安、あるいは問題があったときは、必ず私どもも本当に親身になって相談に乗るつもりでございますので、どうか不安を解消して一緒にひとつ仲よく楽しくやることを切望申し上げまして、私の意見とさせていただきます。

ありがとうございました。

○会長（小嶋善吉） 続きまして、藤浪委員。

○委員（藤浪二美雄） 藤浪でございます。私も賛成でございます。

理由といたしましては、先ほど由比の委員さんも言うておられましたが、いたって平凡な理由というか現実的な理由というのですか、静岡市と由比町は昔から生活圈や経済圏が一体化していると言ってもよいではないかというふうに思っております。これは通勤だとか、あるいは通学による人口の動態からも言えますし、もっと言えばですね、国や県の機関も以前から静庵地域を1つの地域としてとらえて、事業を行ってきたという経過もあるわけでありまして。また、一方、蒲原町が静岡市になっており、その中に挟まれている由比町が静岡市と一緒になるということはもう自然の流れであると、こういうふうに思っているわけでありまして。

先ほど来、委員さんの中からも合併による不安ということの話が出ましたが、これは私の経験から申し上げますと、合併しましたら市長や議長に足しげく由比町に出向いてもらおうと、イベント事業や何かにどんどん出向いてもらいまして、1日も早く由比町を理解してもらいまして、由比の皆さんと協力してまちづくりを進めていただければ、すばらしいまちになるんじゃない

ないかとこんなふうに思っております。

以上でございます。

○会長（小嶋善吉） 続きまして、佐藤委員。

○委員（佐藤京子） 佐藤でございます。私もこの合併案には賛成でございます。

その理由ですけれども、先の由比町の町長選並びに統一地方選におきまして、多数の由比の町民の皆様が、合併を進めたいという強い意志を示したことが一番ではないかなと思います。それから、現在、旧蒲原町が旧静岡市と合併して、由比町を挟んで静岡市が市制を敷いているわけでありまして、このような行政の体制というのは余りいいものとは思えませんので、それに由比町さんにとっても富士川町が富士市と合併を進めている中で、今後の町政を考えていきますと、むしろ早急に静岡市と合併することの方が20年、30年、それ以降の住民生活の安定や安心につながって、双方にとってこれは必要な合併ではないかと私は思います。

それで、この間、合併協議会を進めてきました過程で、双方が誠意を持って真摯な姿勢でテーブルについて、納得いくまで十分に話し合いがなされたことが、この合併は必ずや成功をすることになるのではないかなと思われました。そして、よい方向に進んでいくと思います。

私は、清水区に住んでおまして、由比町には休みのたびに犬を連れてお散歩にいったり、由比町は大好きなまちでございますので、早く同じ区の住民となって一緒にいろんな活動をしていけたらなと思って、期待してお待ち申し上げております。

以上でございます。

○会長（小嶋善吉） 続いて、岩邊委員。

○委員（岩邊 泰） 由比町の岩邊でございます。静岡市と由比町の合併に賛成をいたします。

由比町は今、加速度をつけて進む少子高齢化により、今後、税収の減収を伴い財政基盤が縮小していくことは明白であります。また、国及び県から地方に交付される補助金、交付金等の減額が考えられ、財政を一段と深刻化させることが想定をされます。高齢化が進むことにより本来、充実していかなければならない医療、福祉行政の著しい低下が懸念されます。また、厳しい財政状況では、まちの発展を図る投資的事業の計画も実施不可能となります。合併をすることによって自治体として行財政基盤の強化を図り、広域的、長期的視野に立った計画の基に、より効率的な行財政運営と住民サービスが図られるものと思っております。

先ほどもお話がありましたけれども、現在、静岡市と由比町を毎日3,000人近い人が行き来をしております。今、由比町の世帯数は2,964であります。このことは1世帯に1人当たりの人が静岡市とのかかわりを持っているということになります。由比町的生活圏は既に静岡市と一体化していると言っても過言ではないと思われれます。生活圏と行政サービスを同じにすることが住民サービスの向上につながると考えております。

合併当初は住民サービスの変化により、不安を感じることもあると思います。また、デメリットのケースもあるかと思えます。しかしながら20年、30年先を見据え、長期的、総合的

に判断していくことが大切であると考えております。住みなれた由比町の名前が消滅してしまうことに寂しい気持ちはありますが、静岡市の一員としての発展に向けた努力を私たち自身が行っていくべきであると考えております。

先ほど、自治会連合会長の市川さんから、区長会に対しての要望がございました。早い段階で自治会としてひとり立ちして、行政におんぶにだっこではない自治会組織づくりにというお話がございます。私、区長会長として十分その辺を腹におさめ頑張っていくつもりですので、今後ともよろしくご指導のほどお願いをしたいと思います。

以上、賛成の意見とさせていただきます。

○会長（小嶋善吉） 続きます、小倉委員。

○委員（小倉忠一） 由比町の小倉でございます。私はこのたびの由比町と静岡市の合併は、新しい時代の進展に伴うものと理解をし、賛成をさせていただきます。

ただ、先ほども横尾委員からもお話が出ましたとおり、由比町は120年の歴史を持っているということで、我々の町の歴史、文化、伝統が失われるのではないかと心配をしている町民もかなりございます。しかし、これからはやはり我々がそうした町民に対して、そうした問題は必ず心配ないということを、我々の言葉で位置付ける必要があるのではないかとこのように思っております。もちろん今まであった役場がなくなるということによって、町民の不安というのはまだまだ失せないと思いますが、これらに対しましては、また静岡市のご配慮をいただけるものというふうに私は自信を持っております。私は、経済界の代表ということでもございますので、これから静岡市と合併した場合の由比のよさというものを少しお話をしたいと思います。

鈴木委員は時々由比へ来ていらっしゃいますから、おわかりだと思いますが、我々の町の地域ブランドであります由比産の桜えび、これが非常に全国的に販売が伸びているということで、これからはこの桜えびに関する問題が、かなり大きく取り上げていかれるのではないかとこのように思っております。これに関連するように由比の漁港というのがですね、もう近々外港へ新しい施設もでき上がって、市場も新しくできるということで、大きな飛躍が期待されるというふうに私は思っております。これに伴いましてね、この旧漁港の施設に道の駅を造ったらどうだという声もございました。そういう構想は前々からあったということでございまして、そういう意味からいきまして、この旧漁港の施設のこれからの静岡市における広げ方というのが、私は非常に課題になって、また大いなる期待をしているということでございます。今後、静岡市合併後は経済界の発展に必ず役立つものだというふうに私は思っております。

どうぞその辺におきまして、観光面を含めまして静岡市のご支援をいただいて、由比町が新しい静岡市としての発展につながっていくことを、私は賛成の声としてお話をさせていただきました。

以上でございます。

○会長（小嶋善吉） 続きまして、豊島委員。

○委員（豊島智江） 由比町の豊島でございます。私も賛成の意見を言わせていただきます。

私は、まず2年前に合併協議会があったときに、私と町長は同じ席にここに座っておりました。あのときも私は1町民として由比町の総意を受けて、大多数の皆さんの賛成を受けてこの席に座らせていただきまして、賛成の意見を言わせていただきましたが、ああいう結果になってしまって、また、静岡市さんのご好意によりこの席を設けていただき、5回という協議会は本当にいろんな意見も出ましたし、私たちも譲りたくない点もございましたが、静岡市さんが本当に意見を受けていただきまして、スムーズに協議会が行ってきたことに対して大変感謝を申し上げたいと思います。

では、私の意見を少し述べさせていただきます。

この合併は行財政改革を基に、もう私たち地域は生活圏を静岡市と同一にしておりますので、当然、合併をしても本当にすぐにスムーズに行くものだと思っておりましたけれども、由比町の1万人にも満たない町民を受けてです、高齢化も進んでおります中で、本当に皆さんの不安を持っているということはやはり事実だと思います。まず、組織及び機構におきまして附帯意見を付けて皆様をお願いしてあるのは、由比町の町民の不安解消に向け最大限の努力をして欲しいという意見を添えました。やはり支所というのは難しいということは、当然はじめから私もわかっておりましたけれども、事務所について、やはりここを合併するのは当たり前だという意見の中で、高齢者で遠くなる不安ということは拭い去れないようございました。それと保健センターの機能の設置を私は強くお願いをしていきたいということ、その際にもお願いいたしましたが、ぜひ充実させていっていただきたいと思います。私は、前回の合併協議会においても未来の子供たちに向け、私たちが間違っはいけない選択をしていきたいということで意見を述べさせていただきましたので、高齢者の方とそれから、これから静岡市民となっていく新しく生まれてくる子供たちのためにも、ぜひ保健センターは充実させていっていただきたいと思います。

それから、私たちは主婦として家庭を守っております。生活に密着した一部事務組合の件について本当に心配を持っておりました。

静岡市さんがほかの市と町との話し合いに向けて運営をしていただくことは、指導力を本当にお願ひしたいと思っております。ただ、安心・安全を考えておきますと、やはり病院の問題とか救急医療の問題がやっぱり先に立っていくと思います。ぜひともそういう面を考えての運営をお願いしたいと思います。また、先ほども出ましたけれども、やはり由比には倉沢地区に道路が重なって通っております。あそこがやはり通行止めになりますと、私たちの生活それから安全という面におきまして本当に困ることが目に見えておりますので、やはり県、国にまた話を通していただいて、そういうバイパス機能ができる道路を考えていただきたいと思ひます。

あと、私は由比の女性団体連絡会の会長として、この場に参加させていただいております。私たち女性の会はとても活発でパワフルです。由比の当然、桜えびもそうですけど、ほかの農業のビワとかアマナツとかミカンとかも大変頑張っていてやっております。その中において私たちの女性は本当に結束力が強いです。そういうところをですね、私たちも由比町はなくなりますけど、由比のまちを明るく活発にやっていきたいと思っております。それをぜひそういう組織がまたなくならないように、そして静岡市政に私たちの活力と決断力、パワーをぜひ活かしていただくように、皆様のご支援とご指導をいただきまして、私たちの女性の力をぜひ静岡市政のお役に立てていただければと思っております。

以上、含めまして私の賛成意見とさせていただきます。

ありがとうございます。

○会長（小嶋善吉） 続きまして、市川委員。

○委員（市川 彰） 県の総務部の市川でございます。

まず、はじめに両市町が過去の経緯を乗り越えて、改めて合併協議を熱心に行われ、きょうを迎えたということに対しまして深く敬意を表したいと思っております。

それから、この合併につきましては、いわゆる飛び地の解消ということも含めて、由比町が加わることによって政令指定都市としての一体的な都市圏が形成されると、あるいは清水区が形成されるということで、新たな静岡の力になっていくものと期待をしております。

それから、由比町に関しては先ほどから話が出ておりますように、この政令市の一員になるということによって、自らがこの政令市の発展にどう尽力できるかということをご期待を申し上げるところでございます。私、昨年ですか、大変印象に残っておりますのは、静岡市と蒲原町の合併において、記念式典に出席をさせていただきました。そのときに蒲原町の小学生の方々、あるいは中学生の方々が地域への思いを発露され、また、静岡市の歌を自信を持って喜びを持って歌われたということが非常に印象に残っております。そのような日が早く来ることを祈っております。

どうもありがとうございました。

○会長（小嶋善吉） それでは、次に、望月委員。

○副会長（望月俊明） 副会長の望月でございます。私は合併を是といたします。

その理由は、幾つかあるわけでありまして、最大の理由はただ1つ、組織及び機構の協議項目におきまして、由比町といたしまして大変強く要望させていただきました支所の設置の件につきまして、いかに短期間の暫定的と言えども、支所的機能を設置する協議結果を得ることができたということでありまして、このことにつきましては、ほかの委員の皆様からも発言がありましたが、私は本協議会におきまして終始、由比町役場庁舎に支所を設置することを協議結果に盛り込むこと。この1点に絞って協議を進めてきたつもりであります。

由比町にとりましては、もちろん協議項目すべてが大事であります。しかし、私は百歩譲っ

でもこれだけは譲れない。表現が余り適切でないかもしれませんが、このことを私の心に誓い本協議会に臨んできたつもりであります。おかげさまをもちまして静岡市さんの大変多大なるご理解を賜りまして支所的機能を設置し、その後においても当分の間、事務所を置く協議結果を得ることができました。

ここに町民を代表いたしまして、静岡市のご配慮に対しまして心から御礼申し上げる次第でございます。本当にありがとうございました。

なお、附帯意見といたしまして、由比町民の不安解消に向け最大限の努力をして欲しい旨の意見を添えさせていただきましたが、明治22年以来120年にわたり小さな行政を続けてきた由比町が、政令市であります静岡市という大きな行政の一員として仲間入りをさせていただき、なれ親しむまでにはまだまだ幾つかの大きな山を越えなければならないと思っております。由比町民も1日も早く静岡市民の一員として認めていただけるよう努力をいたしますけれども、先ほどの附帯意見に添えさせていただきましたように、暫定的とは言え支所並びに事務所における事務事業、職員配置につきましては、年度途中の合併であるということも考慮していただきまして、特段のご配慮を賜りますよう重ねてお願いを申し上げます。

そんな理由で合併を是といたします。なお、発言が長くなってまことに申しわけなく思いますが、少し所見を述べさせていただきます。

平成17年3月末までの合併特例法によりまして、廃置分合関連議案の否決によりまして、静岡市との合併が白紙になって以来、私は今日に至るまで合併が実現できなかった事実、また静岡市にご迷惑をかけてしまった責任について考えてきたつもりでございます。まちを預かるトップといたしまして合併を不調とした責任は大変重く、職を辞することも選択肢の1つではありましたが、多くの町民の皆様の温かい励ましにより辞するよりは職責を全うし、結果を出して責任を果たせ、やめるのはそれからでいいというような声に甘えさせていただきまして、今日まで来ることができたと本当に感謝の気持ちでいっぱいでございます。

合併白紙後においては、単独行政を余儀なくされておりましたために、行政改革を断行する、また私自身も責任を示す意味におきましても給与の32%をカットさせていただくなど、できる限りの努力はさせてきていただいたつもりでございます。また、一方では、大変損なわれた静岡市との信頼関係を修復すべく、水面下といえども県のご指導を仰ぎ、静岡市の皆さんと意見交換の場を積極的に実施させていただいたことと自負しているところでございます。

石川県知事からもですね、平成18年度は裏舞台であっても平成19年度は表舞台で頑張れというような激励の言葉をいただき、本年4月22日実施の統一地方選挙で町民の総意を静岡市に示すことができたことによりまして、静岡市さんは由比町が投げたボールを、よくぞ受け取っていただいたことと本当に感謝の気持ちでいっぱいあります。

おかげさまで7月9日に念願の合併協を立ち上げることができ、本日の合併を是とする結果に至ったことはまことにありがたく、私にとりまして最大の喜びであり幸せの極みでいっぱい

でございます。ここに謹んでお礼を申し上げ、残された期間、私も由比町長としての職責をしっかりと全うすることをお約束させていただき、私の所見といたさせていただきます。

ありがとうございました。

○会長（小嶋善吉） それぞれご発言をいただきましてありがとうございました。

最後になりましたが、私は規定によってかどうか知りませんが、私の考えを示す機会がありませんでしたが、最後に一言言わせていただきたいと。よろしいですか。

お許しをいただければ私の今の所見を述べさせていただきますが、私も皆さんと同じように何とかいい合併をしたいというふうに思っております。

我々、旧静岡市は我々の先輩の時代から実はもう合併の繰り返しなんです。私が先輩に聞いたら、もう10回以上やっていると、最後は旧安倍6ヶ村ですけれども。その後、清水そして蒲原、今度は由比ということになるんですけれども、清水との合併の議論をしたときもですね、かつて10回合併をした地域、特に山間地周辺が多いんですけれども、まだそのときにことを覚えている古老がいらっしゃるわけです。結構。聞いたら、合併してよかったんですか悪かったんですかと聞くと、みんなよかったと言ってくれたんですよ。僕はそれで実は合併に自信を持ったというのが1つあります。やはり合併というのは難しいことだと思います。お互いに痛みが伴いますし、特に編入合併というと従来の1つの自治体が消えてしまうことになるわけですよ。その痛みというのはやっぱりみんなあったんですけれども、そういうものを乗り越えて新しい未来のために大きな決断をする。そして数十年たった後その人たちがよかったと言ってくれたのは、要するに努力すればそうなるんだなということがわかりましたし、合併しなければ恐らくお互いにこんな大きな力の強い都市にはなれなかったということも事実だと思います。そういう意味で、我々としては特にこの中部圏の中核都市という立場で、周辺の自治体の皆さんはやっぱり我々と同じ仲間だという意識がありますので、一つの自治体として手を取り合って力を発揮し合っていくということになれば、そんなすばらしいことはないし、そういうことで我々が役割を果たせるのならね、いいことだなというふうに思っていました。ただ、合併というのは難しいものです。難しいもんですけれども、難しいからやらないのでは進歩がない。やはりそういうものを乗り越えて新しいものをやっぱり作り出していくというのが、今、我々の世代に求められているということだし、また合併というのはやっぱり我々も何回もやっていると思いますけど、本当に行財政改革の最たるものですよ。ですから、そういう意味でも今はそういう時期なのかなというふうに思います。

ただ、そうは言っても、今日これで全員、合併を是とすることをご意見をいただいたわけですが、まだこれで合併が決まったわけではありません。最終的には廃置分合議案を両議会が議決をしなければできないわけでありまして、私からは一応ここで合併を是とすることいいですね。

一番大事なことを、それでは、まず、この合併協議会では合併を是とするという結論でよろ

しいですね。

〔「異議なし」の声〕

○会長（小嶋善吉）　そういうことにいたします。

あとは、この合併協議会の意見を両議会が全面的に支持をしていただけるように、また、さらにこれから皆さんのご努力をお願いをさせていただいて、私のあいさつとしたいと思います。ありがとうございました。

○副会長（望月俊明）　それでは、大変僭越でございますけれども、私の方からもう一言意見を述べさせていただきます。

ただいまは委員全員一致によります合併を是とする決定をいただきまして、まことにありがたい心から御礼を申し上げます。

先ほども申し上げさせていただきました、静岡市に大変ご迷惑をかけた前回の合併協から2年半、町を預かる私にとりまして日々その責任を痛感してきて今日に至っております。したがって、そのことを思うと今、私は感無量でございます。言うまでもなく前回の責任、それは町長の私にあるものでありまして、今ようやくその責任を果たすチャンスが目の前に迫ってきております。合併は由比町の将来を見据えた最大の行政改革、そして、それにも増して住民サービスの向上であると私は思っております。

本日、この合併を是とする協議結果を私も議会に、そして、また由比町民にすべてに報告をさせていただくとともに、12月議会に提案いたします廃置分合の関連議案につきましても、私の責任において必ず議決させますことを、ここに謹んでお約束申し上げますので、委員各位におかれましても絶大なるご協力を賜りますよう、よろしく願いいたします。

以上であります。

○会長（小嶋善吉）　ありがとうございました。

次に、その他といたしまして、合併が是となったことを受けまして、合併協定書調印式について事務局から説明があります。

○委員（青木 仁）　ただいまは、由比町、静岡市合併協議会委員全員の賛成をいただきまして、本当にありがとうございました。

私たち合併に賛成の議員は、先ほども岩邊さんちのお話がありましたように、少子高齢化の急増が進む中をもって、私たちの町には税金、人口の増加は望めませんし、その反面、教育、福祉など多方面にわたるニーズの対応、高度な知識を持った専門職の採用など、非常にお金のかかる歳出のかかることばかりでございます。加えて歳入には限りがございますので、歳出の削減のために行財政改革は必要ですけれども、私たちのようなこんな小さな単独の町では住民サービスの低下につながりますし、近隣市町との差が広がるばかりでございます。私たちは一番行財政改革の最大の効果は合併であると、こういう考えの基に賛成の議員を平成17年3月31日までの合併特例法の経過後も、静岡市との合併の必要性を説きながら各区を回って

まいりました。これに呼応して町民の代表から、静岡市の早期合併の実現に向けた請願が10月4日に提出され、10月31日に臨時議会で採決をいたしました。合併に賛成の議員は年度内に何とか早く合併をしようということで目指しましたが、余りにも議員の任期が短く、また、町民の意思の確認が必要という考え方から早期の合併は断念しまして、賛成の議員は全員、統一地方選挙に出馬しようという決意を固めました。多くの町民は静岡市の合併に臨み、議員定数、先ほども横尾さんの方からお話ございましたように、11名中、1位から9位まで賛成議員9人が当選をいたしました。その後も区長の方から早期の合併の請願が出され、私たち議会は町民の期待に応える責任があると思います。廃置分合議案は確実に賛成多数で可決をいたします。必ず賛成多数で可決いたしますので、よろしくお願いをしたいと思います。

○会長（小嶋善吉） 力強い決意の表明、ありがとうございました。

それでは、先ほどもお話ありました合併協定書締結式のことについて、説明をお願いします。

○事務局 合併を是とする決定がなされましたことを受けまして、合併協定書締結式を行います。日には12月5日、水曜日の午後3時30分から、JR東静岡駅南口のグランシップの12階、1,202号室に会議室を予定しております。

当日は、静岡県知事それから両市町の議会の議長を立会人としてお迎えをして、調印式を行います。

締結式では合併協定書に市長と町長が署名をするとともに、県知事及び両市町の議長には立ち会いをお願いしております。

委員の皆様にはご都合がございましたらご出席をいただければと考えております。

以上でございます。

○会長（小嶋善吉） 以上、本日、お諮りする議案の審議はすべて終了ということでございます。

第5回静岡市、由比町合併協議会をこれもちまして閉会をいたします。

長い間、本当にご苦労さまでございました。